

模擬国連@NUS (シンガポール国立大学)

11月25日(金) 高校2年生国際科81名が修学旅行にて、世界大学ランキングでアジアNo.1であるシンガポール国立大学の学生と模擬国連を実施しました。国際科の生徒は10月から時事英語の授業で8時間の事前研修を重ね、本番に臨みました。4グループに分かれて、アフガニスタン、シンガポール、スイス、アメリカ、フランス、中国、ブラジル、南アフリカ、パキスタン、ソマリアの10カ国の代表として、Reducing Child Mortality (子どもの死亡率を低減すること)について、約7時間議論を深めました。模擬国連を運営するNUSの学生が議長を務め、英語での議事進行や決議案の策定に力を貸してくれました。参加した生徒からは、「使用する英語が難しかったけど、お互い協力して交渉することができました」「決議案のまとめ方がとても参考になりました。レポートや論文にも役立てたいです」と、とても充実した表情が伺えました。



SGHプレゼンテーション@NUS

同日GS IIの課題研究を進めている平和班(3班18名)、医療班(5班24名)、水班(8班39名)は、3つの会場に分かれ、英語によるプレゼンテーションを実施しました。アンケート結果やインタビュー調査、学術資料や実験データ等をスライドに組み込み、これまでの研究成果を披露しました。英語による質問にも臆すことなく意見を発信していました。聴講したNUSの学生からは、「ジェスチャーやアイコンタクトをうまく活用して」「You-tubeを活用して発信してみてもいい」「平和教育の副教材は良いアイデアなので、今後の成果を教えてください」との助言や感想をいただきました。12月14日(水)の中間発表会に向けて良い経験となりました。

翌26日(土)には、平和班は国立博物館、医療班はシンガポール総合病院の医療博物館とチャイナタウン、水班は英語の授業で事前学習したNEWaterでフィールドワークを実施しました。広島や長崎原爆がどのように記述されているか、シンガポールにおける医療の発展と歴史、日本の医薬品販売との相違点、膜濾過(日本の技術も活用されているそうです)による下水の浄水化等について識見を深めることができ、課題研究の一助となりました。

